

2022年度(令和4年度)

自己評価報告書

**学校法人 東北外語学園
キャスウェルホテルアンドブライダル専門学校**

■2022年度（令和4年度） 自己評価について

本校では、学生等が関係業界等のニーズを踏まえたより質の高い職業教育を継続的に享受していけるように、学校運営の改善を目指し学校自己評価を行いました。評価にあたっては、文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」を参考に実施しております。この自己評価の結果を活用し、さらなる教育活動並びに学校運営等の質の向上に努めてまいりたいと考えています。

1. 対象期間：2022年（令和4年）4月1日 ～ 2023年（令和5年）3月31日

2. 実施方法

- (1) 実施時期：2023年5月
- (2) 実施回数：年1回
- (3) 実施体制：校長を中心に教職員で自己評価を行っております。
- (4) 評価結果の公表方法：当該報告書を本校ホームページに掲載

3. 自己評価の項目

自己評価は、以下の10項目について実施しております。

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

評価項目の達成および取組状況

(1)教育理念・目標

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学校の理念・目的・育成人財像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④	3	2	1
②	学校における職業教育の特色は何か	④	3	2	1
③	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④	3	2	1
④	学校の理念・目的・育成人財像・特色・将来構想などが学生・保護者等に周知されているか	④	3	2	1
⑤	各学科の教育目標、育成人財像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 教育理念は、学則に定められている。また「学生必携」にも明記している。今後もホテル業界との連携を通じて、「喜びと感動」を共有できる人材を送り出していきたい。
- ② 実践的職能の習得をめざすため、講義、視察、実習、インターンシップといった体験型の授業を展開している。
- ③ 外的要因に影響を受けやすい観光業界において、対応力のある職業人材を提供できるような学校づくりを行っていきたい。
- ④ 学校案内、ホームページ等で確認できる。また在校生には「学生必携」をつかったオリエンテーションで周知できるようにしている。
- ⑤ 学習内容の見直しを図り、カリキュラムに反映させている。

(2) 学校運営

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	目的等に沿った運営方針が策定されているか	④	3	2	1
②	運営方針に沿った事業計画が策定されているか	④	3	2	1
③	運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④	3	2	1
④	人事、給与に関する規定等は整備されているか	④	3	2	1
⑤	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	④	3	2	1
⑥	業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	④	3	2	1
⑦	教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	④	3	2	1
⑧	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	④	3	2	1

■ 状況、課題、改善策について

- ①② 理事会で承認された事業計画をもとに毎年運営方針を策定している。事業計画及び運営方針は学校法人の全職員を対象として会議等の機会により周知している。
- ③ 学校運営に関する組織は整備されており、必要に応じて部門間で意見交換の上、適正に判断し業務を遂行している。
- ④ 規定の整備は随時行っている。特に年休制度については「学園年休」「疾病休暇」の制度を学園独自で整備し、職員の急な休みにも対応できるようにしている。
- ⑤ 意思決定については学園の規程において定められている校務分掌、職務権限に従って行われ、有効的かつ効率的に運営されている。各部門ごとに校務分掌表を作成し、担当する業務を明確にしている。
- ⑥ 学校として法令や基準等で確認が必要な場合は、宮城県担当者に随時問い合わせ適切に対処している。また、グループ法人の顧問弁護士等に相談し、学校としての基本的なコンプライアンス体制は整備されている。
- ⑦ 各種学校行事の活動状況や学科毎の教育活動・成果については、ホームページで情報公開を行っている。
- ⑧ 職員間及び非常勤講師との打ち合わせについては、WEB会議システム（Zoom, Google Meet）を使用し滞りなく行うことができている。

(3)教育活動

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④	3	2	1
②	教育理念、育成人財や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④	3	2	1
③	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④	3	2	1
④	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④	3	2	1
⑤	関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④	3	2	1
⑥	関連分野における実践的な職業教育(産学連携におけるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④	3	2	1
⑦	授業評価の実施・評価体制はあるか	④	3	2	1
⑧	職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	③	2	1
⑨	成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	④	3	2	1
⑩	資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④	3	2	1
⑪	人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④	3	2	1
⑫	関連分野における業界等の連携において優れた教員(本務・兼務を含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	④	3	2	1
⑬	関連分野における先端的な知識・技能等を得るための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	4	③	2	1
⑭	職員の能力開発のための研修等が行われているか	4	③	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針になるよう、常に時代の流れを把握しながら必要に応じて改善している。
- ② 教育理念、育成人財や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保を明確にしている。また時代、社会のニーズによって変化する姿勢を持つため、常にアンテナを張っている。
- ③ 学科のカリキュラムは体系的に編成している。
- ④ 実技を通して実践的な授業を実施、職業意識を持たせることを意識したカリキュラム編成としている。
- ⑤ 毎年、研修時の企業訪問等で現場の方々から得た業界動向を参考にし、かつ講師陣との連携を図り、必要な事項に関しては授業内容に反映させている。
- ⑥ 受け入れ可能な企業に直接打診し、多くの実習の実施を可能にすることができた。
- ⑦ 全科目で授業アンケートを実施し、担当講師には結果を配布し、評価・授業改善に活用している。ハラスメント等トラブルを防ぐことができた。今後は授業見学やヒアリングの実施を進めたい。
- ⑧ 現場で必要と思われるスキルを学生のうちから身につけさせ、即戦力となるような人材を業界に輩出できるように、評価を取り入れられる関係性、もしくは産学連携を組めることが理想であり、今後の課題である。

- ⑨ 判定基準は明確であり、学生への周知も徹底している。
- ⑩ 資格取得等に関する指導体制にカリキュラムが組み込まれている。結果について今後はさらに重きを置き実施したい。
- ⑪ 各業界の経験者など、業界の専門知識を備えた教員による授業を行っている。連携企業と情報交換を密に行い、業界の知識、実際の現場でいきる知識を修得できるカリキュラムを組んでいる。
- ⑫ より優れた教員確保のため、企業との連携を図っていく。
- ⑬ 業界関連の新情報は共有し、資質向上を図っている。社会の財産となる学生を育成するためには、最新の情報を把握し発信できる教員は必要であるので、教員の資質向上が図られる具体的な研修企画を行いたい。
- ⑭ 学校外でも研修が行われているがなかなか参加できなかったもので、今後は積極的に参加したい。

(4) 学修成果

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	就職率の向上が図られているか	④	3	2	1
②	資格取得率の向上が図られているか	4	③	2	1
③	退学率の低減が図られているか	④	3	2	1
④	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	④	3	2	1
⑤	卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

■ 状況、課題、改善策について

- ① 担任と進路指導担当が連携し、週1回の会議と年間スケジュールに基づき、企業説明会、就職セミナー、就職ガイダンス、模擬面接を実施している。学生と企業のミスマッチを防ぐべく、個人面談を入学当初より実施し、担任・講師・進路室が三位一体となって指導を行っている。
- ② 授業内での指導の他に自己学習を促し、また課外講座を設けて検定取得率の向上を図っているが十分な合格率にはなっていない。
- ③ 担任制と小規模クラスという特性を生かし、方向性に悩んでいる学生の小さな変化にも気づくことができるよう面談を定期的実施している。
- ④ 卒業生からの聞き取りや、企業からの情報提供により把握している。
- ⑤ 卒業生の意見をヒアリングし教育活動の改善に活用している。システムとして確立できるようにしたい。

(5) 学生支援

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
②	学生相談に関する体制は整備されているか	4	③	2	1
③	学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	④	3	2	1
④	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	④	3	2	1
⑤	課外活動に対する支援体制は整備されているか	④	3	2	1
⑥	学生の生活環境への支援は行われているか	④	3	2	1
⑦	保護者と適切に連携しているか	④	3	2	1
⑧	卒業生への支援体制はあるか	④	3	2	1
⑨	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	④	3	2	1
⑩	高校・高等専修学校等の連携によるキャリア教育・職業教育の取り組みが行われているか	4	③	2	1

■ 状況、課題、改善策について

- ① 担任とキャリア系科目の講師とともに自己分析、履歴書作成指導、模擬面接指導を行っている。また進路指導室では求人情報の取りまとめ、学生への最新情報配信と学内企業説明会、学内就職セミナーの企画と実施を行っている。
- ② 担任制を採用し、定期的に学生と面談を行い学習、健康、生活について相談を行っている。日頃の行動に問題がある学生に対しては担任以外も指導に加わっているが、目に見える結果はまだ出ていないので引き続き改善していきたい。なお特に対応が難しい精神的な問題には、臨床心理士などの専門家をスクールカウンセラーとして配置し担任と連携している。
- ③ 毎年、高等教育の修学支援新制度の更新申請を行い、対象校となったことで今後は経済的に困窮している学生に対してこれまで以上に支援ができると考えている。また引き続き日本学生支援機構の奨学金制度、入学時の学費サポート制度、2年次特待生、学費の延納・分割納入など様々な側面から経済的に支援する制度も継続していく。
- ④ 1年に1回学生の健康診断を行っている。また、校内に保健室を常設し、カウンセラーも配置してメンタル面の相談もできる体制を整えている。
- ⑤ 課外活動として毎年1・2年生合同レクリエーションを実施し、学年を超えての交流の機会を設けている。
- ⑥ 学校の近くに学生寮を設置している。ここでは寮監が常駐し、学習面や生活面から進路の相談まで幅広く対応している。
- ⑦ 保護者には前後期の期末試験後、各科目の成績・出席状況を発送し、学習面・出席面について伝えている。なお体調不良、悩みによる不登校の学生や問題を抱えた学生の保護者とはその都度担任から電話による報告・相談を行い改善に向けた連携を行っている。
- ⑧ 卒業後も旧担任等に連絡があり、仕事の悩みを聞いたり、相談やアドバイスをしている。
- ⑨ 社会人のニーズを踏まえた実習室を含め講師、カリキュラムなど教育環境の整備をしている。
- ⑩ 宮専各の仕事体験やガイダンスへの参加により、職業教育の理解を上げている。

(6)教育環境

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように設備されているか	4	③	2	1
②	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④	3	2	1
③	防災に対する体制は整備されているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 時代に合わせた生きた教育を提供するためにWi-Fi環境を整えたい。
- ② 実習や研修、インターンシップは積極的にコロナ禍前と変わらず実施している。
- ③ 大規模の地震を想定した避難マニュアルを作成し、年に2回避難訓練を行うようにしている。内容は災害対策本部の設置、避難経路及び誘導手順の確認、校舎の自衛防衛組織の体制作り等である。

(7)学生の受入れ募集

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2	1
②	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2	1
③	学納金は妥当なものになっているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 毎月開催している来校型のイベントでは職員一同協力して本校の特徴、学科概要、カリキュラム等を伝え参加者に満足していただき、入学意欲を高める機会にできるよう心掛けている。また、毎月平日にオンラインでの説明会を開催することで、遠方で参加の難しい方・休日が行事で忙しい方に向けても相談の機会を設けた。地方での進学相談会などに関しても積極的に参加し、本校に興味のある方・各分野での就職を考えている方に対して進路決定のためのアドバイスを行っている。進学相談では入学後のミスマッチが生じないよう他校とも比較した上で進路を決めてもらうように説明している。
- ② 教育成果を伝える手段としては「学校紹介パンフレット」「本校ホームページ」「各種イベント」等を通じて伝えており、見やすさ、分かりやすさ、伝わりやすさを意識して制作及び伝達に取り組んでいる。パンフレットは写真や情報の差替えだけにならぬよう、入学検討者が見たい情報・読みたい順番に配慮して構成を再検討して制作している。HPやSNSでは在校生のリアルタイムの情報が発信できるよう、積極的な投稿を心掛けていく。オープンキャンパスでは、よりリアルな情報が提供できるように学生スタッフを配置し、参加者との交流時間を設けている。今後とも教育成果を迅速に発信できるよう心掛けていきたい。
- ③ 健全な学校運営を基本とし、進学希望者の家計などの環境変化等も踏まえ学納金を決定している。また経済的困窮者が増加傾向にあることから、本校では定期的に学費サポート制度の検討を行うようにしている。

(8)財務

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4	③	2	1
②	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	③	2	1
③	財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2	1
④	財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ①② 当年度決算において学園全体の経常収支は支出超過となった。これは予算編成時点での学生数に若干の見込み違いが発生したためである。そこで次年度の予算編成時はできる限り支出削減に勤め経常収支で黒字になる編成を行うように対応をした。そのため令和4年度単年では赤字となったが、中長期的には学校の財務は安定すると思われる。
- ③ 会計監査は法令に基づき監査法人及び監事により適正に行われている。
- ④ 私立学校法により閲覧に供することが義務付けられている事業報告書及び財務情報についてはホームページで公開している。

(9)法令等の遵守

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	法令、専修学校設置基準などの遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2	1
②	個人情報に関し、その保護のための対策が取られているか	④	3	2	1
③	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④	3	2	1
④	自己評価を公開しているか	④	3	2	1

■状況、課題、改善策について

- ① 設置基準を遵守し運営を適正に行っている。
- ② 個人情報に関しては「個人情報への取り組み」(個人情報保護方針)を定め、適正な保護の実現を行っている。
- ③ 自己評価委員会により自己評価を行い、その後学校関係者評価まで実施している。その際に問題点について検討している。
- ④ 自己評価の結果については「学校自己評価報告書」としてホームページによる公開を行っている。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目		適切・・・4、ほぼ適切・・・3、 やや不適切・・・2、不適切・・・1			
①	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4	3	②	1
②	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	③	2	1
③	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4	3	②	1

■ 状況、課題、改善策について

- ① 検定試験会場として提供した。
- ② 夏休み等ボランティアの案内を行い推奨しているが、同時期にインターンシップに行く学生が多いため実際行っている学生は少ない。
- ③ 現在は実施していないが、今後実施に向けて検討したい。